

不平等回避が自発的な提携形成に影響するか？

- 経済実験による分析 -

高橋広雅* ・ 小川一仁† ・ 鈴木明宏‡ ・ 竹本亨§

概要

本稿は協力ゲームにおける提携の形成について実験を行い、形成される提携のサイズが理論で想定されるサイズ(2人提携が形成されるようになっている)と比べて大きくなる(全提携)という結果を得た。実験結果を統計的に分析すると、多くの場合には各プレイヤーはゲームに習熟するにつれて全提携を形成しようとするが、優加法性が満たされずかつ他プレイヤーの過去の行動が観察できる場合には理論的予測に近づく傾向が見られる。優加法性が満たされる場合にはこれらの行動は不平等回避的な選好によって説明可能である。

JEL classification: C71; C91; H79

Keywords: 経済実験, 提携形成ゲーム, 市町村合併, 不平等回避

論文はこちらからダウンロード出来ます。

*広島市立大学国際学部、htaka@intl.hiroshima-cu.ac.jp

†関西大学社会学部、kz-ogawa@kansai-u.ac.jp

‡山形大学人文学部、asuzuki@human.kj.yamagata-u.ac.jp

§帝塚山大学経済学部、takemoto@tezukayama-u.ac.jp